



祝 気仙支部 15 周年記念式典・講演会



気仙支部15周年記念式典・講演会

激動をよき友にし、企業家として 互いに成長を続けてきた歴史を次の15年へつなぐ

気仙支部の15周年記念講演会が、7月26日火曜日、陸前高田シンガポールホールで行われました。当日は県内各地から経営者の皆さんに加え、全社あげて社員と参加する企業や、気仙地域の自治体の職員の皆さんなど総勢86名の参加で、盛大に開催されました。

記念式典では、この15年の歩みを映像で振り返ったあと、田村代表理事から、支部がスタートするまでの背景や、28名会員で始まった支部

腑に落ちた経営理念

き入っている姿が印象的でした。
**女性の皆さん
遠慮しないで！**

経営者からの「社員とのコミュニケーションの取り方」についての質問では一緒においでいただいた同社の近藤部長に、社員の立場からお話戴きました。

された気仙の女性の皆さんの背中を押してくださった時間となりました。

社員が主役になれる 企業をめざして

特別な方法やり方があるのではなく、普段からの社長も社員もない人間的な信頼関係が大切であること、そしてどんな意見を出し合える風土、その根幹に経営理念があること、最後に新入社員も主役になれる仕組みについても、実際の取り組みの実例からご紹介いただきました。

橋本氏からのプレゼントとして、社員が自ら考え行動し生み出したアイデア商品、リーフティーカップ（お湯を注ぐだけの茶葉入り紙コップ）や日本茶が飲みたくなるお茶菓子「粹町しよこら」シリーズ（ほうじ茶、ごま入り



田村 満代表理事

がたった2年で倍増し60名を超えたこと。そして震災前の毎月例会には50名もの参加が毎回あり、深い学び合いを続けてきたこと、震災を経てここまで来ることができたことへの感謝の想い、そして地域のことを考え続けたこの間の歩みについて、丁寧にお話戴きました。

また来賓として

岩手県沿岸広域振興局 副局長 大久保義人氏、陸前高田市 市長 戸羽太

氏、住田町 副町長 横澤孝氏にご挨拶を戴き、これからの活動への期待を込めたメッセージをご披露いただきました。



左から横澤氏、戸羽氏、大久保氏

記念講演では、講師に（株）吉村 代表取締役社長 橋本久美子氏（東京同友会代表理事）をお迎えし、「日本茶で日本を元気に！」、「小さくてもキラリ☆」と光る存在であり続けるための社員との挑戦」をテーマにお話しいただきました。その根底に社員と共に

に経営指針の実践を続けてきたことがあったことがわかり、参加した経営者の皆さんのほとんどが、「腑に落ちた」と言葉が出そうな表情をされて聞

講師の橋本氏からも、質問が男性ばかりの会場の雰囲気を見て、「女性の皆さん遠慮しないで声を出して！」と壇上から励まされる場面もあり、その声に思い切って立ち上がる姿がありました。表も裏も、オンもオフもない橋本氏の姿が、参加



チョコレートなどを、当日の参加者全員にご用意いただき、「社員が主人公になるとこんなものが生まれる」と具体的な事例を手にとって実感できた時間となりました。

社員が自分の頭で考え、行動できるように

経営者からの感想では、「理念はガードレール、と

いう言葉にはっとさせ

られた」「社員を教育

しようとしていた自分

に問題があったのだと

気づいた」「橋本氏の

前向きな姿勢、ポジ

ティブな言葉に見習っ

て実践する努力をして

いきます！」「社員との

関係がうまくいかない

と思っていたが、目的

と目標の捉え方を自分

主体で物事を考え、決めることが多いので、社員が発信できるような環境をつくりたいと思う」「何かをするときに目的と目標をしっかりと、過去質問をやめて未来質問をすることを実践したいと思った」など、社員にとって、つい一歩歩みをすすめてしまうような、共に学び合えた有意義な時間となりました。

た有意義な時間となりました。



**気仙支部創立から
15年の歩み**



支部・地区通信

県央支部

県央支部6月例会が6月29日(水)やはぱーくとZOOMオンラインで開催されました。報告者は(一社)カダル代表理事 藤岡裕子氏より「何もない自分をさらけだしたとき、やるべきことが見えてきた」というテーマでご報告いただきました。

岩手を元気にする仕事したい!

藤岡氏は東京の大学を卒業後、しばらく東京で仕事をしたのち、生まれ育った岩手を元気にしたいとの思いから、2019年にUターンし矢巾町の地域おこし協力隊で2年間仕事をします。任期最終年を迎える2021年に一般社団法人矢巾地域まちづくりコ



ンソーシアムの理事の退任を機に理事を引き継ぎ、4月に一般社団法人カダルに名称変更してスタートしました。しかし、右も左もわからず勢いで代表になったものの不安の日々。そんななか地域協力隊で世話になった先輩の経営者から同友会で勉強してみればと誘われ入会します。

何もない自分をさらけだす覚悟

次の月に第15期人を生かす経営指針実践塾を受講します。「受講はしてみたものの、自分には全く軸も、覚悟もない全くの空っぽ。そんな自分に情けなくなり涙ばかりでした。」と藤岡氏は振り返りました。しかし同期の仲間、関わる先輩経営者の支えもあり何とか経営理念を創りあげます。悩みながらもトライアンドエラーを繰り返す中で、次々と社内問題が起こります。それは社員との信頼関係が崩壊するということでした。問題解決のために同友会の行事に参加しながら考えていくと、すべの原因を社員のせいにして、責任を押し付けそれに気づかないふりをして

逃げていた自分に気が付きました。そこで社員と真剣に向き合うために個別面談をして社員からじっくり話を聞く事をはじめました。「一度失った信頼関係はすぐには戻らない、でもあきらめずに自分をさらけ出しこれからも向き合っていきたい」と赤裸々にこれまでの2年間をお話しいただきました。

盛岡支部第2地区

盛岡支部第2地区の運営委員会が6月29日(水)、ぴよんぴよん舎で昼食をとりながら今後の方針について話し合いが行われました。

当日は小川原地区長をはじめ、3名の運営委員と(株)中原商店 常務取締役 邊公哲氏にも参加していただきました。邊氏は9月の盛岡支部例会の報告者でもあります。しかし、今まで話を聞いたことがなかったため、一つ二つの質問の投げかけから学生時代、家族、そしてぴよんぴよん舎に入ってから現在までのことを丁寧に話していただき、昼食時間がミニ報告会の場になりました。

その後、これからの地区会の内容について話し合われた中で、邊氏の話を聞き、「こ



の内容はたくさんの方に聞いて欲しいよね。」「お互いの顔を知ることでは地区の会員を回することも大事なこと。」などが出てきました。そこで、まずは例会案内を持って地区のメンバーを回ることになりました。1回目の地区運営委員会は今ごやかな雰囲気の中、終了しました。

盛岡支部第4地区

7月8日(金)盛岡支部第4地区会では、第16期人を生かす経営・経営指針実践塾を受講中の(同)田屋果樹園(代表社員 田屋祐樹氏)を訪問しました。

田屋果樹園は、岩手山や北上川を一望できるロケーションの中、旬な果物狩りが楽し

める農園です。自然の恵みを活かした循環型農法で、質の高いりんご・西洋梨・ももなどを栽培し販売しています。当日は、忙しい中、田屋氏から説明をしていただいた後、参加者はカゴを手に真っ赤に実ったさくらんぼの摘み取りへ。中には子供と一緒に参加した人もいます。目の前のさくらんぼに目移りしながらも夢中でカゴに摘み取る人。カゴに入れる前に口に頬張る人。気がつけば制限時間の30分はあっという間に過ぎていきました。その後場所を移動し、昼食を取りながら次の地区会の予定を話し合い終了しました。



委員会「ほっ」とライン

共同求人委員会

共同求人委員会は6月20日(月)、6月23日(木)の2日間と、7月6日(水)岩手県立産業技術短期大学校を訪問し、就職担当の先生とそれぞれ意見交換をしました。

6月の訪問高校は、盛岡工業高等学校、盛岡南高等学校、盛岡商業高等学校、盛岡中央高等学校、盛岡大学付属高等学校、江南義塾高等学校(20日)、紫波中央高等学校、盛岡市立高等学校、盛岡農業高等学校、岩手女子高等学校、盛岡スコール高等学校(23日)



盛岡商業高校での様子

と計11校を2日間に渡り訪問しました。

「地元で就職したい」という希望者が増!

訪問した高校の就職担当の先生方から言われるのは、ここ2年コロナ禍の中、県内外の企業は求人を検討、訪問も控えていた状況でしたが、今年からは少し落ち着いてきたことから、例年どおり求人が増えているという状況です。また、県外就職より盛岡管内、また県内と地元で就職希望する生徒が2年前より多くなってきたことから、より県内企業の求人が期待されています。

企業規模ではなく、自分のスキルを活かせる仕事を

盛岡商業高等学校の高橋弘幸進路指導部長からは「今年に入り各企業の求人応募が戻ってきています。生徒たちは7月の3者面談に向けて応募する企業をほぼ決めて臨みます。学校側としては前年の求人票を2年の終わりから、3年になったら生徒に公開し、早めに希望企業を選択す

る状況をつくっています。企業の方々には毎年求人票をいただく、より早く生徒の目に多く触れることになりま

す。また、OBが採用され実績を作っている企業も有利になっていきます。当校は流通、会計、情報ビジネス科があり専門的に資格を取得し事務系を目指し勉強している生徒も多いので、企業の大小関係なく、自分のスキルを活かし地元で仕事をしたいと希望する生徒もおりますので、ぜひ積極的に地元企業の皆様の求人をお待ちしております。」とお話されました。

一緒に同行した経営者からは「たとえ、今、自社に求人応募がなくとも毎年あきらめずに求人し続けること。また自社の求人票も特に福利厚生や給与の面も毎年見直しながら、同友会の求人委員会での活動と個別に学校にアピールする必要が大事であることを感じました。」と訪問しての感想でした。

岩手県立産業技術短期大学校 職業人として自立できる人をめざして

矢巾町にある岩手県立産業技術短期大学校訪問では、校長の清水健司氏、副校長の渡辺英浩氏、事務局長の伊藤浩

司氏にお迎えいただきました。じっくりとお話をお聞きしました。副校長の渡辺氏より「岩手県立産業技術短期大学校は、2年間の専門課程と1年間の応用短期過程を持つ厚生労働省所管の実践的なものづくり人材を育成する県立の職業能力開発短期大学校です。創造性が豊かで、実践的に取り組むことができ、職業人として自立できるものづくり人材を育成し、就業に結び受けるという理念のもと、人材の育成に当たっています。そのため1クラス学生定員20名の恵まれた教育環境、少人数の班編成による実験・実習を重ねています。また研究等を通して想像力を醸成するとともに、自立心の向上に重要な人間力も付与します。お蔭様で、就職も100%と県内外の企業の皆様方からはたくさんのお話をいただきました。」とお話いただきました。

学生のまじめさと熱心さが伝わる

その後、校内見学としてメカトロニクス科、電子技術科、建築科、産業デザイン科、情報技術科を事務局長の伊藤氏に大変丁寧に説明いただきました。見学されました。

「産技短という学校名は知っていた、正直言ってどんな学びをしているか知らなかった。でも今回見学して学生たちの授業風景を見学してみると、本当に一生懸命に専門技術を学び、スペシャリストを目指していることがよく伝わった。ぜひそんな学生を採用していきたい」という声をいただきました。佐藤共同求人委員長からは、今回は高校と短大の訪問をしたが、委員会だけの内部学習では狭い考え方になってしまふ。実際に学校に足を運んでみると今後の採用の考え方やイメージを持つことができるので、是非、共同求人委員会に参加してほしい。とお話されました。



社員共育委員会

第10期社員共育塾

スタート!!

常に考え、問題意識をもつこと

6月28日(火)第10期社員共育塾の第1講が、社員・経営者あわせて20名の参加で行われました。今年度も昨年を引き続き9月まで全4講座をオンラインで行います。

入社3年から5年前後の社員と経営者を対象とした社員共育塾は、「何のために生きるのか。何のために働くのか。」



か。」そして自分の未来に向けてのビジョンを描いてもらうことを目的に行っています。第1講では「私たちは何のために働くのか」をテーマに、(株)高田自動車学校 取締役会長 田村満氏に問題提起をいただきました。

「皆さんは競合他社がどのくらいいるか調べたことがありますか。」の問いかけから始まりました。少子化が進む中仕事は厳しさを増してきます。その中でも私たちは結果を出していく必要があります。自社の課題は何か。その背景にある問題は何か。自分で調べ、常に考え、そして「自分ごと」として問題意識を持つことが大切です。その中で「喜び」「生きがい」「自分の人生の目標」など働く意味を見出した時にはじめて仕事になります。「労働」と「仕事」は違います。積極的にかわり合う姿勢をもち仕事をしましょう。と投げかけグループ討論に移りました。

自分らしく成長していきたい

討論では「今の仕事は楽しいですか」「仕事上の悩みはありますか」をテーマに話し合われました。

仕事は楽しいという人が多く、今悩みがありました。そこらから「では悩みがなくなる」と仕事は楽しいのか」「悩みを解決することで成長し、やりがいにつながるのではないか。」などグループ内では真剣に話し合う姿が印象的でした。悩みを抱えている社員からは「自分だけが悩みを抱えているのではない。足元しか見ていない自分が見えた。自分らしく少しずつ成長していきたい。」異業種間のグループ討論だからこそ本音で話し合えた時間となりました。

組織委員会

新会員オリエンテーションが各支部地区で開催されました。第1回目として6月6日(月) 県央支部が花巻市のカゲツドアーズで、7日(火) 県北支部岩手山麓地区は雫石総合運動公園で、サクラダファーム 代表 櫻田大河氏をお迎えし、14日(火) 盛岡支部が同友会事務局3F会議室で(株)三協メディアケア 部長 齊藤大輝氏をお迎えしそれぞれ開催されました。

新しい仲間を迎える嬉しさ とワクワク感

県央支部では、今年の3月入会された、しわナーシングホーム(株)代表取締役 阿部敏俊氏をお迎えしました。最初に県央支部の支部長の瀬川氏より「同友会では新会員の方をお迎えするということは『辞書の1ページ』が増えると言われていきます。400名の会員がいれば400通りの経営体験があり、その1ページ、1ページに深い学びがあります。入会された阿部さんからもたくさんのお話を学びたいという思いで本日はお迎えしました。」と挨拶されました。

本音で語れる場は同友会

その後、参加された皆さんからミニ体験報告をいただきました。花北遠野地区から参加された勘六縁 代表 菊池陽佑氏からは「2011年に農業を始め、無農薬の米を作りました。しかし全く米が売れず、想いばかりが先行し悩み、同友会に入会し経営指針を創る会を妻と一緒に受講しました。これまで思い先行型の経営から経営者の姿勢を問われ、経営理念を創りました。



今では何か迷ったり、ぶつかった時に理念に返り、精神的な支柱にしています」と報告されました。

今回入会した阿部氏からは「前職のJ.Rを退職して母が訪問介護ステーションをしていたので、引き継いで現在、介護施設を経営しています。今回のみなさんのお話を聞き、経営の悩みを本音で語れる場だと感じました。今後もぜひ一緒に学んでいきたい」と感想をいただきました。

ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネジメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

廃材でアップサイクリング

今回は、ドイツの話でなく、岩手の隣の秋田で実験してい

るパイロットプロジェクトの話です。2020年より、日本・スイス・ドイツ(私)のインターナショナルチーム



で、KANSOという名前のものと、自然と調和した「ローテク」の「シンプル」な建築のソリューションを提案、実践しています。www.kan-so-bau.com

現在、KANSOの日本メンバーであるモルクス建築社(秋田県仙北郡)の佐藤欣裕が、自社工房で、解体された建物の廃材(古材)を使って、積層木材パネルの製作実験をしています。

これまでは、地元の製材工場の端材(C/D材)を使ってパネルを製作してきました。接着剤は使わず、釘とビスだけで留める簡単なやり方で、普通の工務店の簡単な設備でできます。壁や床、天井に使用可能です。内部にたくさんスリットがあり、それが空気断熱層になって、非常に高い断熱性能も発揮します。秋田のスギ材で製作したパネ

ルの断熱性能計測を研究機関に行ってもらったところ、熱伝導率は、 $0.05W/mK$ と、セルロスファイバーや木質ボード断熱材とほぼ同等の数値が出ました。接着剤を使用し、空気層もないCLTパネルが通常 $0.12W/mK$ 程度なので、その倍以上の断熱性能があることになりました。

ただこれまでは、コストの問題がありました。森林と地域製材工場と工務店というダイレクトな流通で端材をメイにしてパネルを製作しても、パネル m^2 あたり10万円前後の価格になりますが、建築廃材を使用すれば、製作の間は若干多くなりますが、材料費が浮く分、安くなり、6万円前後になると試算しています。

日本では現在、築30年前後の建物が大量に解体されています。その理由は、耐震性能がない、腐りがあるなど、リフォームの価値がない、もしくはリフォームが割に合わない、または、持ち主が単に新しく建て替えたい、といったものです。その解体木材の

7/8割は焼却され(一部熱利用)、残りはチップになっています。防腐処理やペンキ塗装がされた木材は、積層パネルには使えませんが、無垢の柱や梁に使われていた木材は、十分な利用価値があります。それを選別して集め、アップサイクリングするので

「木材パネルは、蓄熱・調湿性能は高いけど、断熱材としては性能が劣る」という業界の懸念は、空気スリットを入れた接着剤を使わない積層製材パネルの実証実験で覆すことができました。

もう一つの懸念「でも積層木材パネルは高価」は、建築廃材(古材)を活用することで、大分抑えることができると思っています。しかもこの方が、資源節約と資源の有効利用になり、環境パフォーマンスは良くなります。

森で60年から100年かけて育った木を、30年使って燃やすなんてもったいないし、木に対して失礼です。日本には築1000年以上の世界最古の木造建築物もあります。

素心知困

岩手同友会の経営指針成文化の学び合いの中で大切にしてきた6つの質問があります。▼「何のために経営しているのか」「どんな会社にしたのか」「わが社は何を売っている会社か」「わが社のお客は誰なのか」「地域にとってわが社はどんな存在なのか」「社員をどう見ているのか」▼この問いは5ヶ月間の経営指針セミナーを終えても、ずっと将来にわたってついできます。▼18年前、新たに「経営指針を創る会」を立ち上げようと検討を進めた際、膝を交えての沢山の議論の中から生まれました。「何のために…」は今や新入社員研修会でも定番になりました。▼どんなに素晴らしい講師の話も聞いても、自らの中しんに明確な目的の灯がともらないと、一瞬の感動で終わってしまう。問い掛け合い、関わり合いの中から生まれる教育の成果は形にはなかなか見えません。▼でも薄紙を重ねるような学び合いに挑戦し続けている社長の姿は、社員からは輝いて見えています。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■同友会ホームページを
ご利用下さい。www.iwate.doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載
事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

**オリジナルラベル
ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA
自園自醸ワイン紫波 社名ロゴ 包装、 12本以上
写真OK のし無料 作成料無料
岩手県産ぶどう100%

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自園自醸ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク
醸造元
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11



物を大切にし環境にやさしくしたい 使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ Doki-Doki 2nd STREET

(株)トータル・リユース
代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
ise yukiro

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

めだか

有限会社いわてにつかコミュニティ企画
(事業内容) デイサービス/生活介護/訪問介護/住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス/相談支援事業所/訪問看護/就労継続支援B型



TUENO

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は、
「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ
〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 Ⅸ0191-21-4531
テコカルセンター一関市地主町7-15 Ⅸ0191-32-5020
輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>

節電は経費削減につながります!

オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか?
お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。

長寿命 ● 消費電力 ● CO2削減 ● 発熱が ●
カット ● ● ● 少ない ●

現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい!
LEDに入れ替えた場合のコストシミュレーションも可能です。
ぜひお気軽にご相談ください。

株式会社 **平金商店** TEL:019-624-2121



人と自然にやさしい
環境を創り
地域型企業として
貢献します。

岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市黒川 22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614



ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 ● 植物 ● BDFの製造・販売 ● エネルギー ● CO2 ● 浄化槽汚泥収集運搬

紫波環境株式会社
岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
<http://shiwakankyo.com/>



Southern Iwate
DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
<http://www.si-dsg.com/>
/mobile



DOYU I W A T E
同友いわて
2022 Vol.162

発行/岩手県中小企業家同友会
広報委員会

2022年8月1日発行

〒02010878 岩手県盛岡市着町4-15 カガヤ着町ビル3F
TEL 019-626-4477 FAX 019-626-1644
Mail: info@iwate.doyu.jp